

放課後等デイサービス事業所における自己評価

記入日： 令和6年1月6日

事業所名 放課後等デイサービスゆうすい

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	1	6	・利用児の人数次第で、空きの居室スペースを分けている。 ・多い時は室外での活動をしている。 ・晴れた日は戸外活動を行っている。 ・活発な活動、静かな活動と過ごす居室を分けて実施している。	・室内運動遊びに適していない。 ・長期休みなど人数が多くなると、部屋のスペースが狭く危険なので活動を工夫していく。
	2	職員の配置数は適切である	4	3		・活動内容により人数が足りないと感じることがある。 ・必要な時は、他事業よりヘルプを貰っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	1		・廊下の手すりが無い。 ・スロープや階段が雨が濡れると転倒の危険性あり。 ・一部階段あり。 →処遇改善にて、検討し改善を図っていきます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		・ヒヤリハット・事故報告書の対応をしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		・アンケートや評価の実施。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		7		・第三者による外部評価未受審の為
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	1		・アセスメント・評価していない。(身体機能・ADL等) →計画書の更新時や状況に応じて実施していきます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			同上
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		・季節の行事を取り入れたりしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1		・不十分。 →今後は、担当職員間で意見を出し合い、課題等を設定し実施していきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1	・支援終了後は難しい日もある為翌日に朝礼にて振り返りを行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	1		・やや不十分、アセスメント・評価不足。 →状況を見て、必要に応じて実施していきます。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7				
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1		・不明。 →会議等が実施された場合は、議事録などでの情報の開示・共有を図っていきます。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	3		・該当児が現在はいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7			・公開療育に参加している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	1		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	3	・地域交流として機会を作っている。	・リモート交流会など実践していることもあるが、満足のいく内容が難しい。 ・以前は学童との交流あったが、現在実施出来ていない。 →次年度は年間計画に盛り込み、実施していきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	3		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		・連絡帳の活用。 ・TEL・ライン・連絡帳を活用している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	6		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			・必要な場合のみ対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	4		・現在、家族会は解散している。 ・コロナなどで敬遠しがちである。 ・コロナ禍になってから実施出来ていない。 ・保護者様の都合により参加人数が減っている。 →家族交流会として、機会を作り交流図っていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			・放課後等デイサービス単体での広報誌を年4回発行している。
	35	個人情報に十分注意している	7			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている	6	1	・子ども食堂の実施	・コロナの為、行事の簡素化が進み現在は行えていないが、徐々に実施していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	2		・保護者様への周知は出来ていない。 →マニュアル・フローチャート等を保護者様へ開示・周知を図っていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1		・年4回実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		・定期的な勉強会	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	2		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			